<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：大船ルーテル保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：河野 知代	定員（利用人数）：190（162）名	
所在地：〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷2-26-3		
TEL：045-892-2366	ホームページ： https://ikusosu.jp/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1967年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 イクスソ会		
職員数	常勤職員：32名	非常勤職員：29名
専門職員	（専門職の名称）：名	
	保育士：43名	看護師：1名
	管理栄養士：2名	栄養士：1名
	調理師：1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：0歳児室	設備：調理室
	居室：1歳児室	設備：給食室
	居室：2歳児室	設備：会議室：図書コーナー
	居室：3～5歳児室	設備：沐浴室
	居室：学童保育室	設備：調乳室
		設備：静養室
		設備：事務室
		設備：お昼寝室
		設備：職員ロッカー室
		設備：屋上遊び場
		設備：教会堂
	設備：乳児用トイレ	
	設備：幼児用トイレ	
	設備：園庭	

③理念・基本方針

<理念>

◎人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなた方も人にしなさい

児童福祉法とキリスト教に基づき、保育に欠ける全ての子どもにとって、最もふさわしい生活の場を保障し、愛護すると共に、最善の利益を図り、保護者と共にその福祉を積極的に増進する。

<基本方針>

●保育に関わる専門職同士が協力し合い、養護と教育の一体的な展開を図り保育の質を

高め、充実させる

- 子どもの主体的な発達要求にตอบสนองする環境を整え、自ら興味・関心を持って環境に関わり、チャレンジしたことへの充実感や満足感を味わうことにより、年齢なりの心情、意欲、態度を養う
- 一人ひとりの子どもがくつろいで共に過ごして、心身の疲れが癒されるようにする
- 子どもの24時間の生活を視野に入れ、家庭との連携を密にして、積極的に子どもの発達過程に応じた育ちを築き、保護者の共感を得て養育力の向上を支援しつつ、エンパワメントを引き出していく
- 子どもが育つ道筋や、生涯教育を見据えた長期的視野を持って後伸びの力をつけ、小学校と情報交換したり交流を密にして積極的に連携していく

④施設・事業所の特徴的な取組

＜大船ルーテル保育園の特徴的な取組＞

1. 「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」という法人の理念を中心に据えた保育
2. キリスト教保育 心を伝える保育
3. モンテッソーリ教育 一人一人の個性を尊重する保育
4. 子どもの人権を尊重したより良い保育
5. 園内外での研修の機会を積極的に持ち、職員個人のキャリアアップを図る

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2024年09月20日（契約日） ～ 2025年04月07日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（2019年度）

⑥総評

【大船ルーテル保育園の概要】

●大船ルーテル保育園（以下「園」という。）は、JR「大船駅」の北東約2km、同駅東口から江ノ電バス「戸塚駅行」約10分、「小菅ヶ谷町」下車徒歩3分程度の住宅地の中にあります。隣接地に「西本郷小学校」、近隣に「西本郷中学校」が存在すると共に、「いたち川遊歩道」や、「飯島南公園」等の公園や緑地があり、恵まれた環境の中に位置しています。

●園の経営主体は、社会福祉法人イクソス会（以下、法人という。）であり、法人の施設は、キリスト教を基に運営しています。法人は、横浜市に4園、川崎市に2園の認可保育所、子育て支援センター、学童保育(当園敷地内)を展開しています。当園は「大船ルーテル教会」を併設し、主日礼拝式、教会学校等を開催し、法人本部も当園の中にあります。法人全体で、キリスト教の教えを中心に、神が私たちが愛してくださっているように、私たちが隣人を愛していくことを日々行うことに努め、保育に当たっています。

●園の定員は、0歳～5歳児までの合計190名です。標準保育時間は午前7時30分から午後6時30分までの11時間とし、延長保育、障害児保育、乳児保育、産休明け保育、一時保育を受け入れています。なお、園舎本館3階に学童保育室があり、相互交流が図られています。

◇特長や今後期待される点
（特長や評価できる点）

1. 【誕生から学齢期までの一貫保育の取組】

当園では、ユネスコが初めて提唱した「生涯教育」を念頭に、「誕生から学齢期までの一貫保育」を意図した保育を行っています。これは、近年成立した「子ども子育て支援法」の理念を先取りする取組として高く評価できます。中でも、初めて家庭の外の生活を経験する0歳児の養育と、「保育所保育指針」が目標とする「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の完成と小学校への準備の時期に当たる5歳児の養育を、特に大切に取組んでいます。0歳児は、初めての集団生活で、大きな不安感を抱きながらの園生活に向かう、精神的・体力的に不安定な時期です。そのため、0歳児には手厚い養育体制を講じています。初期に担当制を取り入れて、同じ保育者が毎日関わることで、子どもの安心感や信頼感を育み、愛着関係の醸成を図っています。保育時間も0歳児クラスは標準時間内で行い、看護師を配置し、乳児の体調管理に万全を期しています。また、5歳児の保育では、特に、小学校へのつなぎを重視して、「全体的な計画」に、「小学校との連携」を位置付け、生活習慣の確立や自立心・協同性等の資質や能力を育むと共に、小学校に進学する心の準備のための時間を日常保育生活の中で計画的に設けています。法人のアプローチカリキュラムに沿った園生活や小学校との交流が図られています。園生活では、外部講師による、国際の時間（体で学ぶ英語）、リトミックの時間、絵画の時間、ダンスの時間が3歳児から用意されると共に、5歳児の3学期以降は小学校生活のリズム移行のため午睡の時間や回数を減らして体を慣らし、卒園行事が種々企画され、園児の進学意識の醸成が図られています。保護者に対しては、年度後半の保護者懇談会や、保護者面談等を活用して、小学校入学準備に関わる相談や情報提供を行っています。

2. 【集中と挑戦による自己育成】

園では、保育の第2の柱に「キリスト教保育」を、第3の柱に「モンテッソーリ教育」を位置付け、第1の柱の「全体的な計画」と共に、3本の柱をもって法人・園独自の保育を進めています。キリスト教保育は、「人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい」という、有名なキリストの愛の言葉を、保育の中で体現しています。モンテッソーリ教育は、子どもの集中現象に着目し、それを発展させていこうとするもので、保育室に備えられた各種の教具を園児が自由に選択してそれに触れることを通して、幼児の持つ自発的で独創的な関心を引き出し、自己育成を促しています。保育者は、アドバイザーとして、幼児のそばにいて、幼児の関心が教具に向けられるように環境作りを行います。園では、0歳児後半から五感を使った感覚教育のための教具等に触れることができるように環境を整えています。特に3・4・5歳児の部屋は、作業の組織化（段階的な学び）が図られ、システムの教具が準備されています。貼る・切る・縫う・タオルを絞る・拭く・洗濯や掃除等の日常生活訓練教具、移動五十音、綴り字法等の言語教具、演算子計算、十進法等の数教具、地球儀や国旗、図鑑等の地理教具等、一定の時間、子どもたちが自分で教具を選び、集中し、さらに高度な教具に取り組むことにより、自然に能力開発が行われています。また、教具と併せて、自然や音楽に触れる体験や、リズム遊び、体操等を通して感性や体力を育む保育を複合することで、生活習慣の確立が図られています。今回の第三者評価における利用者（保護者）アンケートでは、「モンテッソーリ教育の成果を強く感じる（集中力・発話や言語化能力、巧緻性）」等、モンテッソーリ教育を評価する意見が多数寄せられています。

3. 【法人・園独自の人材育成】

法人では、人材の確保・定着と、保育の質の向上に向けて、研修とマニュアル、自己評価、OJTを複合した保育者育成に戦略的に取組んでいます。法人・園の特長的な取組として、「個人研修計画・評価シート」による園長面接が行われています。個人研修計画・評価シートには、冒頭に「今年度の研修目標」として、園の目標、法人の目標が明記さ

れています。職員は、年度の研修課題や課題達成のための具体的な研修計画を記載して、年度末に取組の評価を行います。また、キャリアパス研修について、対象者（経験年数、職）ごとに必要な研修を明記して終了状況を把握しています。職員研修は、上から指定を受けるのではなく、職員が自ら個人の研修計画を立てて自主的に受講する独自の形式を有しています。園長は、年度初めに目標設定等について職員に伝え、年度末面接では振り返りと次年度以降の課題設定等にアドバイスを行う等、職員個々の資質向上に向けて意欲的に取組んでいます。

4. 【業務改善に向けた組織的な取組】

業務改善に向けた法人の独自のシステムとして、「より良い保育を考える会」の取組が挙げられます。これは、各園の各クラス2名以上の職員が、室長（クラスリーダー）と保育の質の向上や業務の実効性を高めるためのアイデアを考え、アイデアを各園の室長がリモートで話し合う機会、年3回実施され、同会で採択されたアイデアは、保育方法や手順、働きやすい職場作り等に反映されています。また、園長は、経営改善や業務の実効性を高めるため、主任や室長と日常的にミーティングの機会を設け、保育の質の向上や働きやすい職場作りに向けて、意欲的に取組を進めています。特に、経営改善の面では、職員の加配加算による収入増や、派遣職員の削減等に取組み、成果を上げています。

（今後期待される点）

1. 【園舎の建て替えに向けた計画的な取組への期待】

園舎本館は築50年が経過し、毎年多額の修繕を要する状態になっています。また、建物の中央部に階段があり、回遊性の問題があること、身体障害児の受入れ設備整備の必要があると認められること等から、建て替えが望まれるところです。一方、建て替えには多額の費用を要するため、建て替えに向けた計画的な取組が必要です。今後共、定員の確保や保育職員加配加算の取得等の収入増に努めると共に、資金積立てや行政の助成制度活用等、施設の建て替えに向けて、法人と協働での計画的な取組が期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名 大船ルーテル保育園

《第三者評価を受審した感想・自己評価での取組の感想》

園長・主任・各室長、そして職員一人ひとりが話し合う事により、自分自身の振り返りの時が与えられ、とても良い機会になりました。

《評価後取組んだこととして》

1. 地域に対しての関わりが、コロナ禍により消極的になっているので、地域支援の見直しを検討。

2. アンケートより保護者の声を聞き、保育の見直しへつなげる。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり